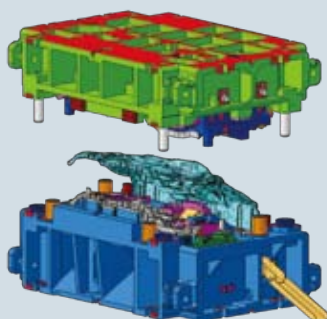


# 金型設計技術を応用し、さまざまな「MADE IN KANSAI」を開発、発信

## 株式会社 坂本設計技術開発研究所

全国 21 関西 21

<http://www.s-sst.com/>



金型3D/プレス金型(トリム型)の3DCAD画像

### Company Profile

株式会社坂本設計技術開発研究所

住 所 / 〒573-0128  
枚方市津田山手  
サイエンスヒルズ2-20-1

創 業 / 昭和53年9月  
設 立 / 平成5年2月  
資本金 / 1,000万円  
従業員 / 18名  
T E L / 072-897-5311  
F A X / 072-897-5313

#### ■主な事業内容

自動車・弱電・航空機・農機  
具・電車・軍需等のプレス金  
型設計及び研究開発、モル  
ド金型設計及び研究開発、モ  
デリング・NCデータ・解析・シ  
ミュレーション・造形面の研究  
開発、デジタルモックアップモ  
デル作製・試作、塑性加工技  
術の研究開発及びデータの蓄  
積、データベースの作成と  
応用

#### ■主な取引先

自動車メーカー及びサブライ  
ヤーメーカー、弱電メーカー、航  
空機、鉄道車両メーカー

### 当社のセールスポイント

社員18名が全員  
3次元金型設計の職人です。



代表取締役  
坂本 喜晴さん

わが社は社員18名ですが、全員がCAD/CAMを自在に扱えるというベースがあります。3次元設計ができ、いろんなデータが扱え、パスまで作れます。全員が職人です。また、発泡スチロール加工機により、製図の過程に応じて造形し、立体化したものをお見せすることができますから、お客様との打ち合わせも効率化でき、金型設計への信頼度も高まっています。



交野市キャラクター「星の天満(あまん)」3D化案発泡モデル



自律走行ロボット「ベルカ」

金型の3次元設計により、日本のものづくりの根幹を担う

枚方市の小高い丘に、さまざまなものづくりの賞に輝く企業がある。金型設計のエキスパート集団「坂本設計技術開発研究所」だ。金型メーカーに勤務していた坂本社長が、将来、金型専門の設計会社が必要とされる時が必ず来る」と確信して昭和53年に創業した会社である。

金型は、自動車メーカーをはじめ日本のものづくりの底辺を支え続けてきた。坂本社長は金型メーカーに勤務時代に、手動の機械で金型を製作する職人たちの匠の技を、そしてその苦労を目の当たりにした。そしてしっかりとした図面があれば、工期もコストも、職人たちの苦労も大幅に削減できると考え、金型設計専門の会社を立ち上げたのだ。わずか4坪からのスタートで、ドラフター5台で金型の設計図を描き続け、数年後にはいち早くCAD/CAMを導入。3次元

の設計により、日本の製造業を支える金型製造の裏方として、ものづくりの根幹を担ってきた。「2009明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」に選定されたときには、ようやくこの仕事の重要性が認められたと喜びを噛みしめたという。

金型設計技術を応用し、産学連携でさまざまな分野に貢献

現在では金型設計技術を応用し、産学連携の、あるいは地域密着の新たな展開に着手している。そのひとつが、大阪工業大学との連携によるロボットの開発だ。通行人や障害物をよけながら動く自律走行ロボット「ベルカ」で「つくばチャレンジ2009」に出場した。今後は盲導犬の代わりとして目の不自由な方を支援するパートナーロボットとして商品化していく計画だ。また、大阪産業大学のソーラーカーや電気自動車の開発に協力。平成17年には「シルク

ロード横断プロジェクト」で中国大陸約2000kmを走破。大きなニュースとなった。

さらに、関西医科大学、医療機関との連携により、地域医療へも貢献。得意としている3D金型技術を応用した骨の造形システム。CTやMRIの画像データから1対1の骨を再現することで、2次元のレントゲンフィルムよりもはるかに確かな手術確認ができるようになる。ドクターのニーズを反映した手術の訓練用技術の開発にも取り組んでいる。

そしてもうひとつは、地元の観光事業への貢献だ。交野市のキャラクターである「星の天満(あまん)」を3次元で製作し、これをおみやげ物に展開。「できるだけ身近なもので、人々の、地域の役に立つものを作っていきたい」。そんな坂本社長の想いとともに、これからもさまざまな分野に、「MADE IN KANSAI」がこの企業から羽ばたいていくことだろう。